

医薬品適用学特別講義		選択	通年	1単位
担当研究分野	分子薬剤学、製剤設計学、薬品物理化学、薬品分析化学、 (実践薬学領域) 臨床評価学、薬学臨床教育評価学、医療英語学			
到達目標・目的	医薬品は最終的に製剤として適用される。製剤化によって多様な機能や利点が付与される。医薬品の品質や製剤としての機能を明らかにするため、物理化学、分析化学、薬剤学を基礎とした方法や技術、知識に関して講義する。医薬品の物理化学、その数学的取扱いについて解説する。品質確保や有効性・安全性評価のための分析化学の基礎及び実践について述べ、基礎及び実践について解説する。さらに、薬物治療の最適化を目的とした技術や方法論について解説する。薬物送達法を含めた適用法や剤形の研究開発、展開について述べ、医薬品についての理解を深める。			
受講心得・準備学習等	講義・演習に積極的に参加し、課題については予め調査し、演習においては、自分の見解を述べるようにすること。			
事後学習・復習等	各研究分野における物事の捉え方を学び、自分自身の研究との関連性について考察すること。			

### 授業の方法と各回の内容

授業の方法		講義・演習
時間	研究分野	講義・演習内容
130分	分子薬剤学	薬物動態を制御し、高い薬理効果や安全性を発揮するための DDS 技術に関する知識を習得し、製剤設計を行う上での課題や問題点に対応できるように、新しい製剤開発の手法や具体例について論じる。
130分	製剤設計学	薬物の生体膜透過機構を分子レベルで理解し、経皮 DDS 製剤設計の基盤情報を学ぶ。医薬品の有効性、安全性、品質、使用性の改善など新しい製剤開発に関する課題解決の考え方や手法、具体例について論じる。
130分	薬品物理化学	薬物の製剤化においては、難水溶性や種々の要因に対する不安定性等の物性改善を要する。その際に適用する技術とその基礎的な理論、また計算科学による予測技術について論じる。
130分	薬品分析化学	食品衛生、環境衛生、臨床化学等の実社会で、分析化学がどのように展開されているのか、周辺の最新状況と分析化学の果たしている役割・問題点について論じる。
130分	臨床評価学	薬物治療を最適化するために必要な臨床評価の手法、そして臨床研究の規制・方法・実例について論じる。
130分	薬学臨床教育評価学	薬学研究における仮説設定と疫学的アプローチについて、実例を上げつつ概説する。また、認知心理学の基礎と効果的な学習方略を概説し、これらの知見が在籍中及び卒後の教育にどのように応用され、薬学教育の質の向上に繋がっているかを論じる。
130分	医療英語学	第二言語習得論に基づいて外国語習得の普遍的要素ならびに個人差要因を論じる。また、医療英語の基礎について、講義を通じて理解を深め、演習を通じて運用の具体的な場面に触れる。

成績評価の方法	それぞれの研究分野においては、ディスカッションまたは発表内容等について複数の教員で評価するが、必要に応じてレポートを課す。 各研究分野からの評価を総合し、判定する。
成績評価の基準	ディスカッションへの取り組み方、課題に対する準備等を総合的に評価する。
教科書	なし（必要な資料を配付する。）
参考書など	
その他	

※上記内容は、一部変更となる可能性があります。